

委員会	医事委員会	担当者氏名	奥田 真央
<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、Dr.1名、トレーナー部10名。 他、信州大学整形外科および関連病院の医師および長野県在宅看護職の会の看護師が協力 ・活動は、各種大会の会場Dr.の派遣と会場トレーナーの派遣、公認C級D級講習会への講師の派遣。 ・3-4年前に比べれば、活動自体は定着してきた。 ・もっと影響力のある活動、スポーツ傷害への啓発活動は今後の大きな課題である。 ・栄養面、心理面に介入する準備が出来ていない。 			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷・障害におけるパンフレットもしくはリーフレットを作成し、配布する。 ・技術委員会とリンクした活動により指導者から傷害予防が啓発できるようになる。 例：トレセン帯同トレーナー、指導者講習会（ポイント付帯）の開催 ・栄養士、心理士のスタッフに入る組織づくりを進める。 ・協力医師および看護師の協力体制を整える。 ・4地区に医事委員会の活動拠点となる病院、施設、スタッフを固定する。 (・JFAにトレーナー組織が立ち上がり、全国的な連携が図れている。) <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ傷害で苦しむ選手が少なくなり、指導者が医事に関する知識・技術を習得できている ・拠点病院、施設、スタッフによる各地域での医事活動が盛んに行われている。 <p>20年以降50年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県の医事が日本の医事の手本となっている。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は時間を惜しんでいる部分がある。時間を惜しまず、取り組めば1年以内には大きな動きが出来る。 ・スタッフの数も増やすのではなく、質を高めていくようなスタッフ研修会を定期的に行っていく。 ・やはり、経費の問題は活動の妨げになることは否めない。どうするかは、もっともな課題。 			